

会 議 名	平成23年度第3回港区3R推進行動会議
開 催 日 時	平成23年12月13日(火)午前10時から12時30分まで
開 催 場 所	港区立エコプラザ3階会議室A
委 員	(出席者) 崎田座長、北村委員、木原委員、榊中委員、藤野委員、 小林委員、鈴木委員、内藤俊之委員、亀田委員、臼井委員、高木委員 (欠席者) 内藤裕子委員、桜林委員、島村委員、武田委員、今福委員
事 務 局	北川、日山、中村、米谷
傍 聴 者	なし
会 議 次 第	区挨拶 1. 報告事項 (1) 区役所ロビー展示について (2) 段ボールコンポスト講座第2回報告会について (3) 芝浦運河まつりでのリユース食器の利用について (4) みなと区民まつりブース出展及びリユース食器導入プロジェクトについて (5) 古着回収について 2. 今後の事業展開 (1) 事業者向けセミナーの実施について (2) 事業者(食品関連)・区民向けセミナー案について 3. 港区一般廃棄物処理基本計画(素案)について 4. その他
配 付 資 料	[事前配付] 港区一般廃棄物処理基本計画(素案) 本編 港区一般廃棄物処理基本計画(素案) 概要版 [席上配付] 1. 「区役所ロビーパネル展示会」報告 2. 段ボール de コンポスト みんなで生ごみ減量大作戦! 第2回報告会 開催報告 3. 芝浦運河まつり実施結果報告 4. みなと区民まつりブース出展及びリユース食器導入プロジェクト実施報告 5. 古着・廃食用油回収実施報告 6. みんなと食の3R事業者向けセミナー 企画案 7. みんなと食の3R事業者・区民向けセミナー 企画案

主な発言・報告内容

1 報告事項

(1) 区役所ロビー展示について

事務局からの報告

区内でごみの減量に積極的に取り組んでいる団体の取組みを紹介し、より多くの人に3Rの大切さを知ってもらうために区役所のロビーで5日間パネル展示会を開催した。

主な発言

- ・ メッセージボードでの意見はどのようなものが多かったか。意見の数や内容がわかればよい。
- ・ 区役所やホームページで寄せられた意見をデータで残した方がよい。知恵の共有になる。
- ・ 出展団体は事業者の中でも環境に関心の高い事業者である。どのような取組みを行っているのかを共有できればよい。このような事業者が参加してくれることが財産である。うまく今後につながるとよい。

(2) 段ボールコンポスト講座第2回報告会について

事務局からの報告

第1回講習会后、約2ヶ月間、受講者は自宅で段ボールコンポストを実践した。実践中は定期的に記録を提出してもらい、生ごみ減量の定量化を図った。第2回報告会では、実践中の発見や困ったことを発表してもらったり、できた堆肥の使い方を教わったりしながら、これからも継続して段ボールコンポストに取り組むためのポイントを学んだ。

主な発言

- ・ 講習会に参加された方の中でも特に報告会に参加された方は熱心な方が多く、段ボールコンポストの広がりを感じた。受講者へのコメントを書くことにより、広がりが生まれると思いコメントを書いたが、結果として様々な人がいることがわかり、参考になった。去年までの受講者が手伝ってくれたこともよかった。
- ・ 継続して輪が広がり、楽しさが定着している。このような企画を提案し、定着できればよい。
- ・ 実際に生ごみを計りながらコンポスト化することで気を付けるようになり、発生させる生ごみが減るということが大切である。

(3) 芝浦運河まつりでのリユース食器の利用について

事務局からの説明

イベントでの紙皿等の発生を削減するため、芝浦運河まつりにリユース食器(区所有の繰り返し使える食器)を貸し出した。芝浦運河まつりは、会場で出たごみの分別の徹底等、

エコなイベントに取り組んでいる。

(4) みなと区民まつりブース出展及びリユース食器導入プロジェクトについて

事務局からの説明

みなと区民まつりで3R推進行動会議がブース出展した。ブースでは、実際にリユース食器に触れてもらい、PRを行うための「リユース食器体験コーナー」を設置した。さらに、資源回収を広めていくため小型家電と廃食用油を資源として回収した。

ブースとは別の会場で一般の出展団体が実際に区から貸し出したリユース食器を使用した。当日は大学生のチームがリユース食器の運用を補助した他、来場者や他の出展者に対してリユース食器に関するアンケートを行った。

主な発言(3、4について)

- ・ 区民まつりのブースで小型家電はごみとして出しづらいので、区で拠点回収するのであればどこに持っていけばよいかについて聞かれた。廃食用油の回収は知られているが、小型家電回収への関心は高いようだ。
- ・ 不燃ごみでスプレーは別に回収しているが、小型家電も分けて回収できればよいのではないか。
- ・ 区民に分別してもらえればよいが、それほどの負担はかけられない。一般廃棄物処理基本計画では、行政が不燃ごみや粗大ごみから分別することを考えている。別の袋で出してもらうことは負担感が大きい。
- ・ 小型家電はこれまでどおり不燃ごみとして出してもらえれば区で分別するのであれば、拠点回収は行わないのか。
- ・ 総合支所で小型家電専用の拠点を設けることは考えられる。
- ・ ガスボンベは分別してもらっているが、回収後の運搬が難しい。車両火災を起こさないために取り組んでいるが、ガスボンベのみで精一杯である。物理的に困難である。
- ・ リユース食器の店舗への貸出しについては、各店舗で協力的に取り組んでいたことはとてもよいことである。

(5) 古着回収について

事務局からの説明

今年度、区内5地区(各総合支所管内)での古着と廃食用油の資源回収を行い、より多くの区民の方にPRをしている。現在まで4地区が終了し、残る芝地区は3月に実施する予定である。

主な発言

- ・ 古着と廃食用油の回収について、集めたものの用途や具体的な数値を知りたい。用途や数値を使い、わかりやすいPRができればよい。

- ・ リサイクルについて、排出者が排出後に排出したものはどのように使われるかを学べれば、それぞれの行動に意味を感じやすく、よいきっかけとなる。容器包装リサイクル法でも同じような課題がある。
- ・ 件数等を出して、次年度行う際に昨年度の実績を示すとよい。持ってくる人は関心が高いようだ。
- ・ パネルを活用すればよい。

2 今後の事業展開

(1) 事業者向けセミナーの実施について

事務局からの説明

生ごみのリサイクルの徹底がなかなか進まない飲食事業者やテナントビルの管理事業者が、食品廃棄物のリサイクルを行う施設を見学することで、リサイクルの仕組みを学び、取り組むきっかけとする。

主な発言

- ・ 食品リサイクル法改正により、大きな事業者は積極的に取り組んでいるが、身近な事業者は事業系一般廃棄物として多く排出していると考えられる。事業者向けの情報提供として大切である。
- ・ 実際に生ごみをリサイクルしようと思う事業者同士がつながればよい。自力で取り組めない事業者への情報共有となればよい。
- ・ スーパーマーケットでは、3店舗で100トンを超える食品廃棄物を出している。45%の発生抑制を目標とし、それぞれにどの程度発生抑制しているのかをアンケートをとっているが、昨年度は38%まで上昇している。45%までは業界として達成できそうである。
- ・ 食品廃棄物のリサイクルが義務化され、費用をかけても行う必要があるが、義務化の対象外となっている事業者にとってはコストがかかる。
- ・ 見学会に参加し、対象となっていない事業者に対しPRしていきたい。
- ・ 年間100トン以上排出している事業者はほぼ100%のリサイクル率を達成しているが、100トンに満たない事業者ではなかなか難しい。
- ・ リサイクルの現場を見学するが、店舗で分別に手間加えるように意識を変える必要がある。その気力を起こすために、排出先を見てもらうことはよいことである。
- ・ 商店街でスーパーや飲食店に紹介したい。
- ・ 実際に参加する人の時間帯としては午後の時間帯は難しいのではないかと。この時間帯では夜に向けての仕込みの時間である。案内しても参加は難しいのではないかと。
- ・ 後から各店舗に紹介できるよう、コストが高くなるのであればどの程度なのかを紹介できればよい。
- ・ 見学先の食品廃棄物を受入れるキャパシティが限界であると聞いたことがあるが、

新規に受け入れられないということはないか。

- ・ 大規模に取り組んでいる事業者を見学しに行くが、同じような事業に取り組む事業者はいるので、取り組みを紹介できればよい。
- ・ 午前中に見学会を行うのはどうか。
- ・ 排出時に手間をかけることにより経費が下がるのであれば、そのことをチラシなどで紹介できる。周知の仕方も工夫が必要である。
- ・ 分別の手間をかけることでコストが下がったり、同じコストでも社会貢献につながったり、といった考え方もある。
- ・ 生ごみを減らすためのよい企画であるが、事業者としてのメリットをPRするとよい。
- ・ 参加できなかった事業者が後から学べるようにすればよい。事業者のメリットもチラシに記載できればよい。
- ・ 震災以降、各店舗ではお客様の理解を得ながら電力をカットしてきたが、その結果、コストの削減ができた。以前は電気をつけて商売することが当たり前だったが、お客様が理解できることであれば事業者も取り組める。これは食品廃棄物でも同様である。新規の店舗ではマニュアルで食品廃棄物をリサイクルするようにしている。
- ・ 区民が事業者の取り組みを知り、親近感がわくことも考えられる。企画の定員の関係もあるが、区民を受け入れられるのであればよい。
- ・ 見学会の報告を映像でホームページに載せることはできないのか。
- ・ 参加したくてもできない事業者もあるので、どこで報告をするのかを示せばよい。

(2) 事業者(食品関連)・区民向けセミナー案について

事務局からの説明

フードバンクは、企業(飲食関連事業者)にとっては在庫の処理が可能となり、個人としても余った食材を寄贈することにより食品ロスを削減できる。また、CSRや社会貢献にもつながる取組みである。今回のセミナーではフードバンクの仕組みや具体的事例を紹介することによって、不用になった食材の再利用について考える事業とする。

主な発言

- ・ 店舗で販売できなくなった商品をフードバンクの仕組みに寄付することが増えてきている。
- ・ スーパーマーケット業界でも個別にフードバンクを活用している事業者もある。お客様に提供できないものがあるので、業界としてというよりは各店舗で取り組んでいる。この取り組みが広がるようであれば各事業者に広報したい。
- ・ フードバンク側としても、預かったものをしっかり使うことの説明責任や公平性を保つために組織を持っている。
- ・ フードバンクはどのような仕組みで運営できているのか。
- ・ 参加事業者は大手が多いのか。

- ・ 個人の寄贈もある。米や油、醤油等、お歳暮等でもらっても使いきれないものを寄贈している。賞味期限が切れたものは扱えない。

4 その他

- ・ 3月に3Rフォーラムの開催を検討している。企画の会議を開催する。
- ・ 企画会議の日程は1月16日を第一候補、第二候補を18日とする。